

卯毛や膳おけり郭云

吳丈

七十三

卯花

花はこえんけまきまきまの具にてけまきま
備もまのけりけりけり

杜鵑

- 杜宇 子規 子舊 蜀魄
- 鷓鴣 鶺鴒 鶺鴒 買鏡
- 時鳥 霍公 別都 頌宜壽

昔をさげさげさげさげさげさげさげさげさげ
さげさげさげさげさげさげさげさげさげ
さげさげさげさげさげさげさげさげさげ
さげさげさげさげさげさげさげさげさげ

七十四

雞冠

雞頭花

花赤い肉を上朱くはまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきま

鷓鴣

昔をさげさげさげさげさげさげさげさげさげ
さげさげさげさげさげさげさげさげさげ
さげさげさげさげさげさげさげさげさげ
さげさげさげさげさげさげさげさげさげ

七 小鳥のついでにやうなむ 一九



連翹のついでにやうなむ



女羅架

琴

松

七十五

連翹

花より一の長けをままのけけと
思ひ〜

榴璃

翠雀

葉より一の長けをままのけけと
思ひ〜

七十六

風蘭

花より一の長けをままのけけと
思ひ〜

啄木鳥

羽

葉より一の長けをままのけけと
思ひ〜



啄木鳥 伴輅

伴輅



畫工精妙沙羅樹 碧鳥如生豈不翔
欲問涅槃真實相 堪憐嗟背絕鳴嗽

王宗千乘

七十七

沙羅雙樹

花ごらんんまごらん編去志ごらんして
そと志ごらんんふくごらん白ゆわくまの
けんりまごらん編去志ごらんして
くは編去

碧鳥

青鳥はさきく後白くごらんんまごらん中
後白くごらんんまごらんん編去志ごらんして
まごらんん編去

七十八

牽牛花

朝白

花ごらんんまごらん編去志ごらんして
そと志ごらんんふくごらん白ゆわくまの
けんりまごらん編去志ごらんして
くは編去

忍ふ

青鳥はさきく後白くごらんんまごらん中
後白くごらんんまごらんん編去志ごらんして
まごらんん編去

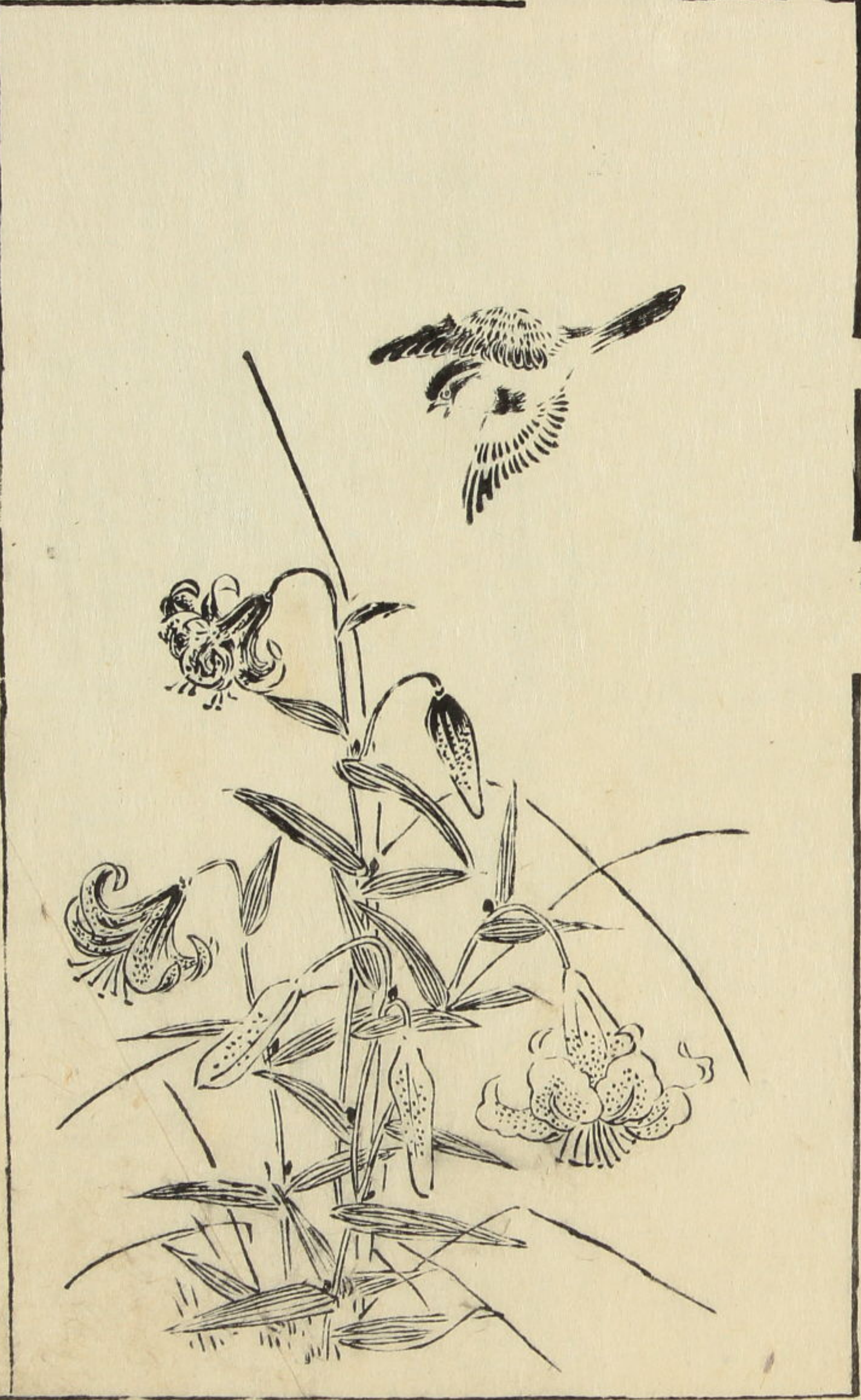
日よりのむやみかりのせしき

千雀



ほりりの首余深山のね風か

少年
金助



七十九

百合

強瞿

赤白あり赤い花は地肉を赤くして多
くつと多々下見して赤くあがて白
けつ白りてふんは多々下けてつと
つと赤く出深る多々下けて白りて
赤白あり赤い花は地肉を赤くして多

深心類白

紫菊は深心類白の四下く
とみくけつ同物と多々下見して
うのこふんも多々下けて

八十

仙景秋

赤白あり赤い花は地肉を赤くして多
くつと多々下見して赤くあがて白
けつ白りてふんは多々下けてつと
つと赤く出深る多々下けて白りて

鳥

紫菊は深心類白の四下く
とみくけつ同物と多々下見して
うのこふんも多々下けて



和木乃々腹を印して城下

喜鳥 常一住 春

沙鷄

岑水



蘭と久しくわびゆり紫葉のうら

女詞

八十一

芝蘭

花多々の具わりの芝蘭はそらりうらまは
はよべー葉二びん御者うらうら後葉の

八十二

椿

花多々の具あやぐまはつらなげんが
どののいへばー花の傍りうらうらまは
うらうらうらうらあやうらうらあやうら
をうらうらうらあやうらうらあやうら
トんまどろべー葉御者まのけうら
うらあやうらうら

鶉

葉は只の量々は目の内葉すくはより葉待
うらうらうらうらうらまはけうらうら合葉
まはうらうらうらあやうらうらあやうら
んまはまはまはうらうらうらうらまは
編うらうらまはうらうらうらうらまは

青鳩

葉は只の量々の具あやぐまはつらなげんが
まのけうらうらまはけうらうらあやうら
うらうらうらうらうらあやうらうらあやうら
あやうらうらうらあやうらうらあやうら
毛うらうらうらあやうらうらあやうら
目の内葉うらうらうらうらうらまは

百花草子

山竹や桂の鳥りえ鳥寺

蓮東



母のふのわれまふしと名

小寺
菊磨



かきや漢りも寝ふゆりの木

来丸

八十五

きんごゆりの木

たきやの具をたがは日節を先ごん
くまさ合葉土をたごん

鶯 鶯

鶯は只の宮路ごん是はて府を突世男
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん

八十六

木槿

舜英

たきやの具をたがは日節を先ごん
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん

きんご

鶯は只の宮路ごん是はて府を突世男
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん
くまさくは上三朱ぶごんくまさくは上三朱ぶごん

八十七

桃

花多平の具上は多平と桃と云ふらんわひ
ろとれ果してしてあまのけきうくせう
まのけくくくく

音呼

は南を月の内朱をみだる保く保まのけ
もくくくくくくくくくくくくくくく
の具はてもくくくくくくくくくくく
保のくまはけくくくくくくくくくく
ありまてけくくく

八十八

鷹爪

花多平の具上は多平と鷹爪と云ふらんわひ
ろとれ果してしてあまのけきうくせう
まのけくくくく

山雀 鷓

は南を月の内朱をみだる保く保まのけ
もくくくくくくくくくくくくくくく
の具はてもくくくくくくくくくくく
保のくまはけくくくくくくくくくく
ありまてけくくく

唐顔て山雀けくくく

擔山





子ら限みりい考は月白小

丘口

八十九

柏 又 榭 樸椒 大葉棟

葉編青葉のけりりは節去揚り枯
くは合若土之葉どくまきりひをへべ

九十

木芙蓉

は白二色あり花を年の具多やと後日
節をのぼりてふんうとら節りつが
うてふは節葉のけりは葉編青草乃
けりま節をとる

繡眼兒

目白

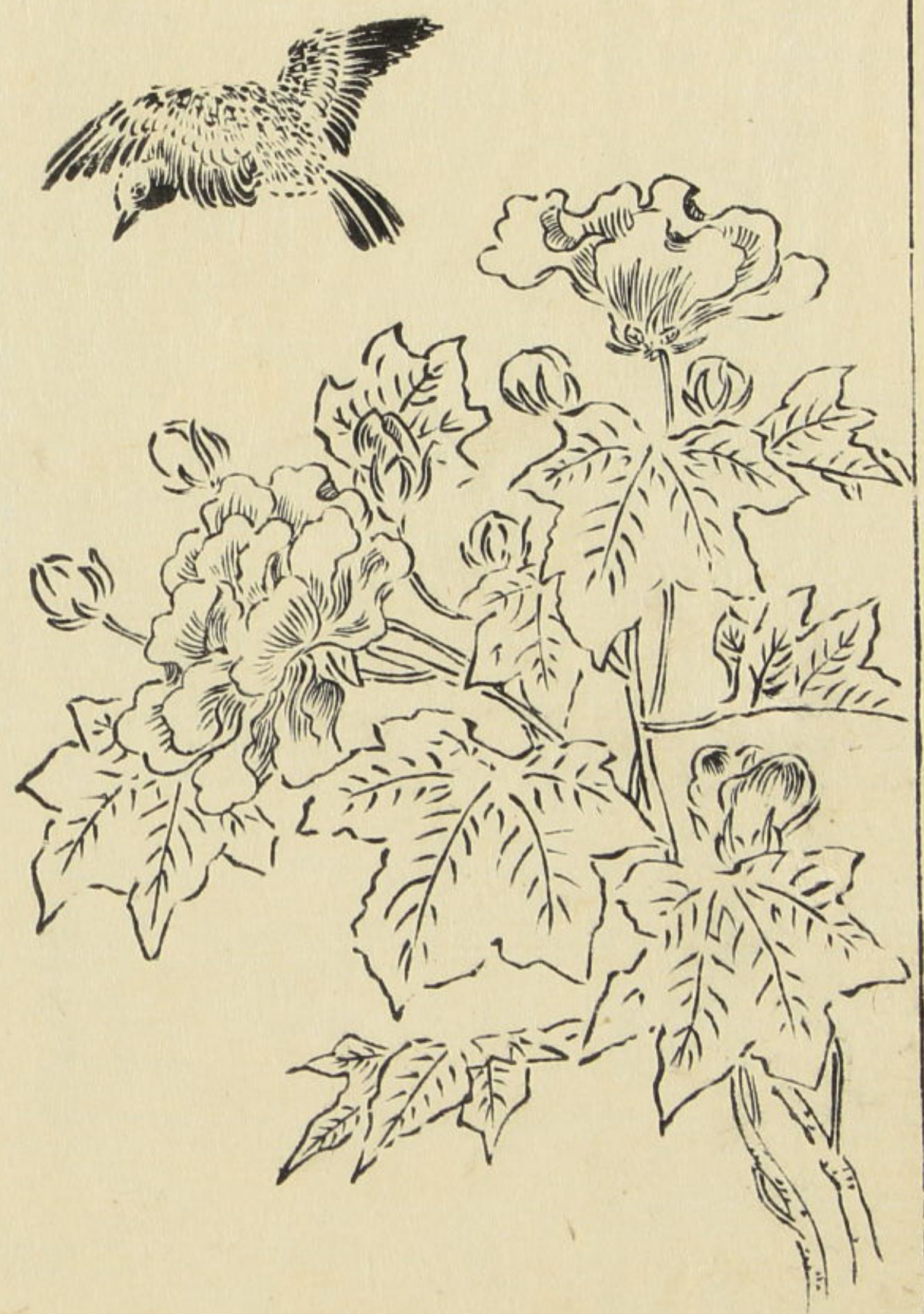
昔とてはまて目の四葉どくまきり
てのりりり脊中すやうすまらまよ
葉のけりりりけりまけりてもまら
下腹どくまきり編青

鶉

昔は鳥とんぞうは鳥也男鳥とては
どくまけりり毛去風切尾思はて二年
どくまけりり毛去風切尾思はて二年
毛うま

雨少ふ入るに花の葉を

加商



かきやうの鳥の羽を

奉石



燕 北 去 必 一 所 在 乃 居

蕙洲



柳 川 之 下 之 橋 之 下 之 行 也 玉 牙

九十五

矢野櫻

花はさくらにけしきをまよのけけしきを編まらむ
いつれもおちよるうらむはま

鴉子鳥

菜鷹 青雀

菜鷹はさくらにけしきをまよのけけしきを編まらむ
いつれもおちよるうらむはま
ひのよる後まて合まままけけしきを編まらむ
ひのよる後まて合まままけけしきを編まらむ

九十六

蘭

花はさくらにけしきをまよのけけしきを編まらむ
いつれもおちよるうらむはま

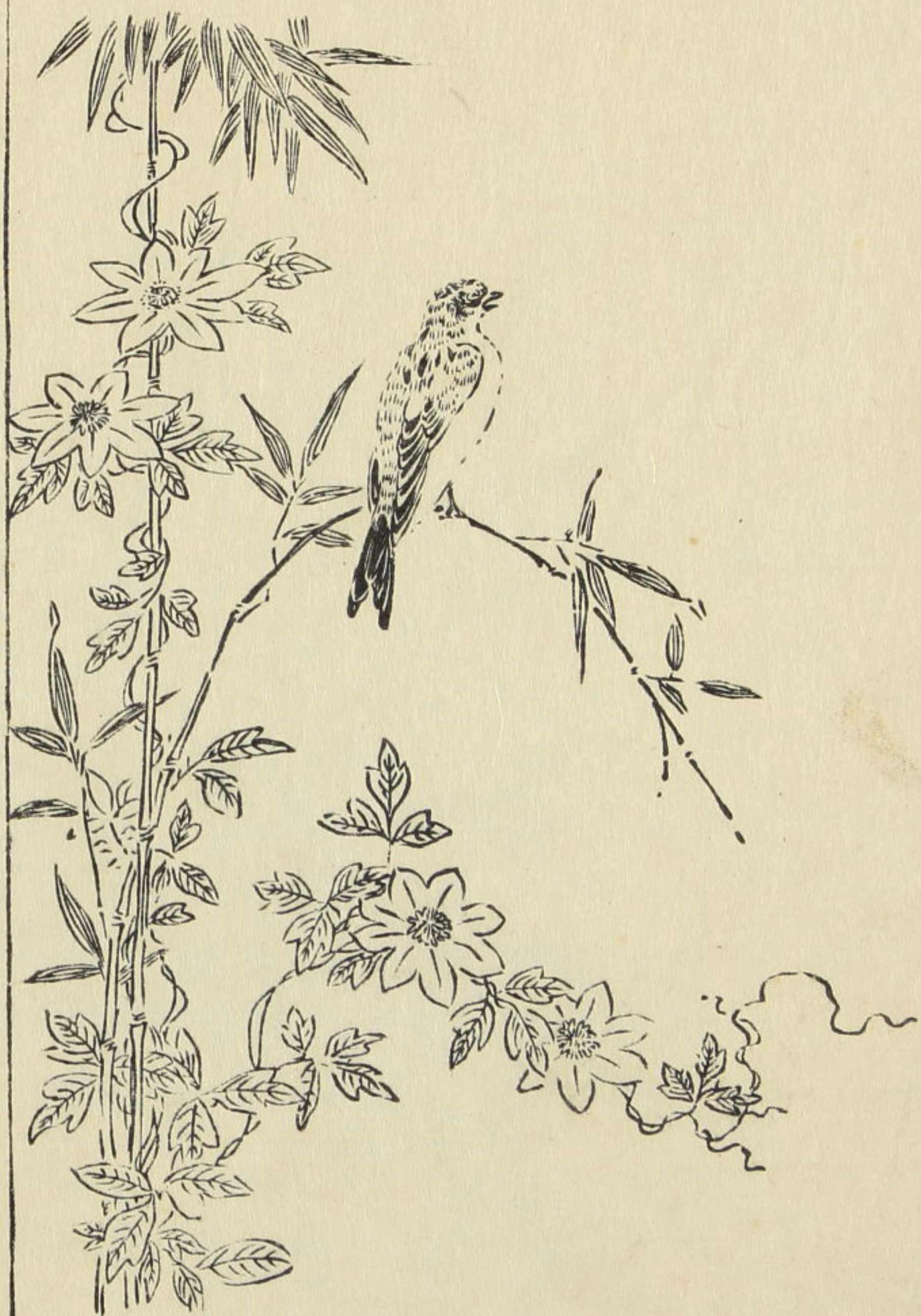
鴉鳥

菜鷹はさくらにけしきをまよのけけしきを編まらむ
いつれもおちよるうらむはま
ひのよる後まて合まままけけしきを編まらむ
ひのよる後まて合まままけけしきを編まらむ

鴉子鳥や風の折南車棠の丸

曼羨





毛乃嶼より宿坊（り）の言也

柳 瑟

九十七

風車

鉄線花

花のちびたたりあやうはこんだううげの
菊のおくくちをそとくはあやううり
葉二ぶん保とまのけはま草とま
はまかり

九十八

ようりしんじう

花のちびたたりあやうはこんだううげの
菊のおくくちをそとくはあやううり
葉二ぶん保とまのけはま草とま
はまかり

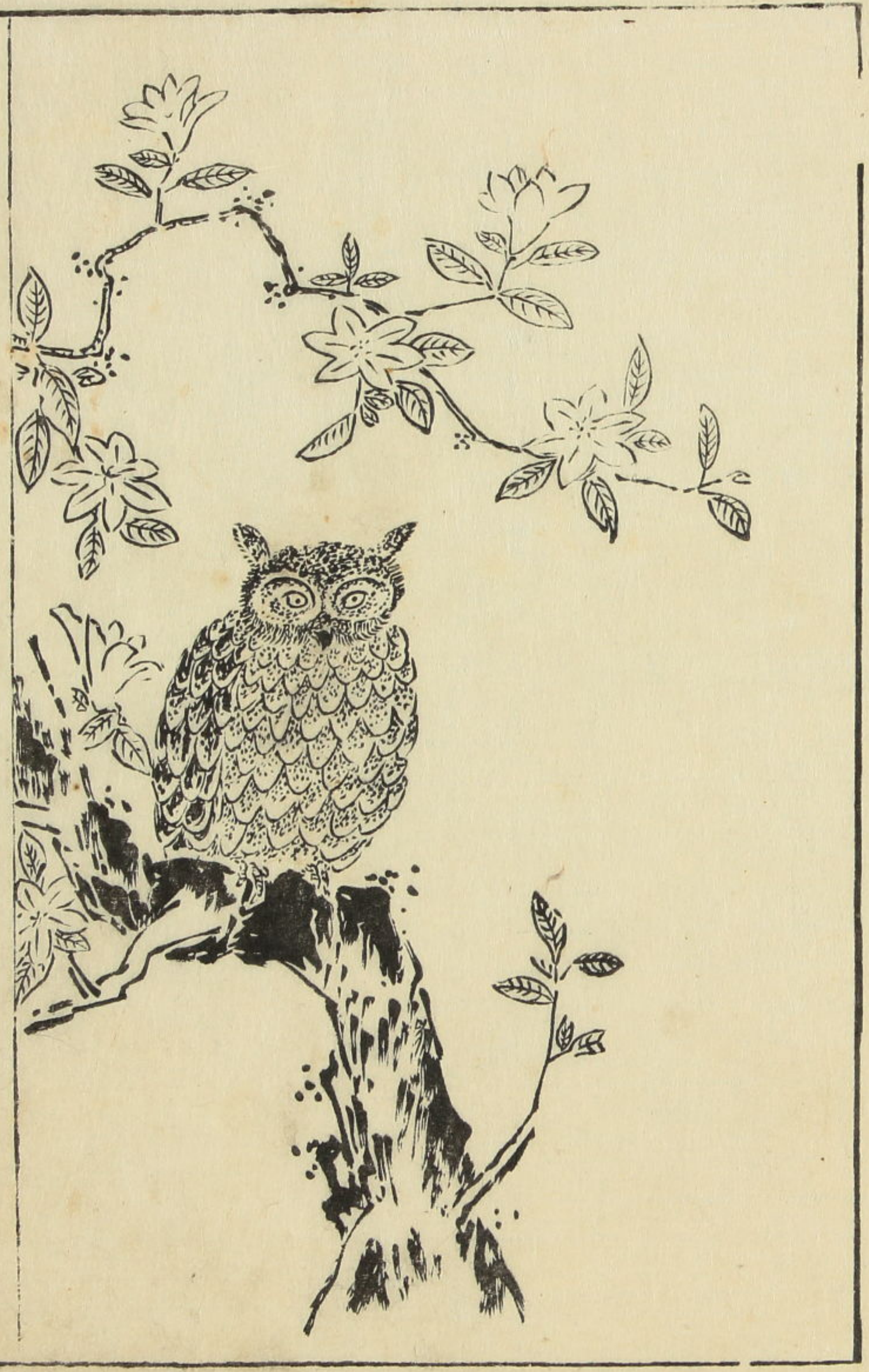
草

花のちびたたりあやうはこんだううげの
菊のおくくちをそとくはあやううり
葉二ぶん保とまのけはま草とま
はまかり

川魚鵜

川のちびたたりあやうはこんだううげの
菊のおくくちをそとくはあやううり
葉二ぶん保とまのけはま草とま
はまかり

冠の法輝やほろりかやんか 野し



暎くこゆりしと木兔の壺園一

嶺二

九十九

辛夷

杞楨

花ごらんらばごらんゆきうてかきあけ
葉のゆきまきうらまきあけい葉のけうて
本うらまきあけてよあけうらまきあけ

木兔

鷓鴣 角鴮 老兔
逐魂泉

花ごらんらばごらんゆきうてかきあけ
葉のゆきまきうらまきあけい葉のけうて
本うらまきあけてよあけうらまきあけ

百

枇杷

花ごらんらばごらんゆきうてかきあけ
葉のゆきまきうらまきあけい葉のけうて
本うらまきあけてよあけうらまきあけ

鴉

花ごらんらばごらんゆきうてかきあけ
葉のゆきまきうらまきあけい葉のけうて
本うらまきあけてよあけうらまきあけ



うらまきあけてよあけうらまきあけ

白雲

